



秋の星座解説

S-303 (14分21秒)

コニカミノルタプラネタリウム株式会社

秋の星座案内

M ブルー

M 綺麗な音楽

N A

秋は日毎に、日が沈む時刻が早くなり、夕方、外にいると、すぐに辺りが暗くなってしまい、少し肌寒さを感じます。けれど、空気は澄み、星を眺めるには大変良い季節です。

さあこれから、夕焼けを見送って、星が出そろうのを待つことにしてしましょう。

(音楽 盛り上がる)

(日の入り)

(音楽 区切りよく終わる)

M 秋の星の音楽

(満天の星空に)

N A

秋の星たちです。
秋は明るい星が少なく、どこか寂しげに見えます。

方位

頭の上方を見上げると、四つの星が四辺形の形に並んでいます。

○ 秋の四辺形

秋のシンボル、「秋の四辺形」です。

辺りに明るい星がなく、2等星で作られたこの四辺形は見つけやすい星たちです。

そして、この四辺形は、ある動物の胴体に当たります。

羽を持つた空飛ぶ馬、天馬ベガス、「ペガスス座」です。

○ ペガスス座

しかし、この馬、体の後ろ半分がありません。

それは、あまりに早く空を飛んだので、後ろ半分をどこかに置き忘れた、なんて話があります。

○ 秋の四辺形

「秋の四辺形」を作る星たちのうち、「の星は本当はお隣の星座、「アンドロメダ座」の星です。

この星から順に星が続いています。

「アンドロメダ座」の星たちです。

そして、さらに隣の星座の星まで、目を移してゆきましょう。

P ベルセウスα

(再出あり)

「秋の四辺形」と組み合わせてみると……
大きな柄杓になります。

(ポインターは

ONのまま)

柄杓といえば「北斗七星」という方もいますが、この季節、北斗七星はそのほとんどが、北の地平線に沈んでいます。

これは、秋の空に見える大きな柄杓なので、「秋の大びしゃく」と呼ばれる星たちです。

柄杓の柄の部分、持つところにあたる星たちのうち、これらの中の星が「アンドロメダ座」の星。

ここにはエチオピア王家のお姫様が、星座になっています。

「アンドロメダ座」です。

○ アンドロメダ座

アンドロメダ姫の両手首を見ると、鎖がつながれています。

これは海の神ポセイドンの怒りを鎮めるため、化け鯨の生にえにされる様子が星座になつたもの。

それは、アンドロメダ姫の母、カシオペヤ王妃がポセイドンの孫娘の悪口を言つたため、怒りを勝つてしまつたからでした。

そのカシオペヤ王妃は、北の空で星座になつていています。

アルファベットの「W」の形、またはお山が二つ、並んだ形、そんな並びをした五つの星を探してみて下さい。

見つかりましたか？

ここにあります。

○ カシオペヤ座

この星の並びから、女人の姿はなかなか想像しにくいですが、カシオペヤ王妃が両手を上げ椅子に座った姿が描かれています。

「カシオペヤ座」です。

○ カシオペヤ座

また、アンドロメダ姫を襲つた化け鯨も、星座になつています。

○ 秋の四辺形

「秋の四辺形」をつかつて、鯨の星座を探してみましよう。「四辺形」の左側の辺、それをずっと伸ばしてゆくと、明るい星に行き着きませんか？

ここにありました。

これが「くじら座」の尻尾にあたる星、「テネブカイトス」です。

この星の左側に、「くじら座」の星たちが見られます。

○ くじら座

この鯨は「化け鯨」。

今にもアンドロメダ姫に襲いかかろうとしている姿が、星座の絵となっています。

鎖に縛られたアンドロメダを化け鯨が飲み込もうとした瞬間！・・・何者かが化け鯨に向かつて、勇敢にも戦い挑みました。

それは「ペルセウス座」のペルセウス王子です。

さきほど、紹介した「秋の大びしやく」の柄杓の柄の部分にあたる最後の星をもう一度、見て下さい。

P ベルセウス座 α

この星が「ベルセウス座」の星。

この辺りの星が、剣(つるぎ)を持ったベルセウス王子の星座となっています。

○ ベルセウス座

ベルセウス王子は、天馬ベガススに跨り、剣を振りかざして、化け鯨に立ち向かいします。

しかし、化け鯨もなかなか倒れません。

そこでベルセウスは最後の手段に出ました。それはもう片方の手に持つた、メデューサの首を鯨の正面にかかげたのです。

星座の絵に描かれたメデューサの首を見てみると、髪の毛の一本一本が蛇で出来ているのが分かります。

メデューサは恐ろしい姿をした怪物。

その姿を見た者は、岩になってしまふと言われています。
まのあたりにメデューサの首を見てしまった鯨は、みるみるうちに岩となってしまいました。

こうして、アンドロメダ姫は無事に助け出され、二人は結婚したと、ギリシャ神話では伝えられています。

(音楽 句切りよく終わる)

もう一度、秋の四辺形に戻りましょう。

秋の四辺形の辺のうち、今度は右側の辺を伸ばしてゆきましょ。

すると、「ちらも明るい星に行きあたります。

P フォーマルハウト

これは一等星の「フォーマルハウト」

秋の星空の一等星はただ一つ、南の空に光る「フォーマルハウト」、この星だけ。

ボタンと光っているので、「秋の一つ星」とも呼ばれたそうです。

その「フォーマルハウト」は「みなみのうお座」の星。

○ みなみのうお座

「フォーマルハウト」は魚の開いた口の部分にあたります。

その開いた口に、流れ込んでいるのが、「みずがめ座」から流れ出た水。

M 後半の音楽（つぎの台詞の中から入る）

○ みずがめ座

この星座の少年は、ガニメデ。

ガニメデはお酒の席で、お酒をつぐために、大神ゼウスに天の世界へと連れてこられました。

ですから、この水瓶から流れ出ているのは水ではなく、ひょつとするとお酒かも知れません。

○ みなみのうお座

それなら、「みなみのうお座」の魚は、ずいぶんと酔っぱらった魚かも知れませんね。

酔っぱらつて・・・と言えば、もう一つ面白い伝説を持つた星座を紹介しましょう。それは「みなみのうお座」や「みずがめ座」の右隣に見える、「やぎ座」です。

○ やぎ座

この山羊も、おかしな姿をしています。

あるところに「バーン」という神様がいました。ある日、お酒を飲んでいると、そこへ怪物が襲ってきました。

バーンは慌てて川に飛び込んだのですが、変身するのに失敗して、半分は山羊、半分が魚という姿に。

それがそのまま星になり、バーンはやぎ座として天に昇つてしまつた、という話です。

実はこのバーンという神様、いつもはやさしい神様なのですが、一度怒ると、とても恐く、他の神様でも手の付けようがなかつたそうです。そんなことから、「バーンの怒り」が「バニック」という言葉の語源になつたそうです。

(音楽 句切りよく終わる)

M エンディングの音楽

秋の天の川は北の空を中心に、大きな円を描くように流れています。

淡い光の天の川の周辺には、壮大な物語にまつわる星座が見られます。

読書の秋とも言いますし、一度アンドロメダ姫やベルセウス王子など、星座にまつわる物語をじっくりと読んでみるのも、いいかも知れません。

そして、物語と照らし合わせ、もう一度、本当の星空を見上げてみてはいかがでしょうか。

(音楽 句切りよく終わる)

おわり